

概要

- 大家畜経営において、生産費のおよそ半分は、飼料費が占めており、配合飼料の大部分と粗飼料の一部は、海外に依存している。
- 一方、配合飼料と粗飼料の価格は、国際的な穀物需要の増加やウクライナ情勢、円安などの影響を受けて令和3年以降高止まりしており、大家畜経営は、収益性の悪化など深刻な影響を受けている。
- そこで、大家畜経営における飼料費削減のため、自給飼料の生産拡大に**新草種の栽培可能性の検証と低・未利用資源の飼料化に取り組んだ。**

具体的な成果

1 新草種「トランスバーラ」の種子島における栽培可能性検証と栽培普及

- ① 5月～8月植え付けでの**越年栽培を確認**
- ② **新規実証栽培者 R5 → R8 0戸 → 2戸**
- ③ 普及に向けた**種苗ほを設置**



写真1.トランスバーラの草姿

2 さとうきびハカマの飼料利用の検討

- ① 飼料利用を進めるために、**2つの回収システム(ロールベラー回収システム、生ハカマ回収システム)を構築**
- ② さとうきびハーベスターハカマ排出口(ダクト)改良による回収歩留向上
- ③ **冬期の粗飼料不足の補完飼料としての有効性を実証**
- ④ 輸入乾草利用より、ハカマを給与することで、繁殖母牛1頭当たり**425円/日～475円/日**をコスト削減
- ⑤ **回収利用モデル組織 R5→R7 1組織 → 3組織**
- ⑥ **生ハカマ回収面積 R5→R7 11.1ha → 13.1ha**



写真2.ハカマ回収（さとうきび収穫と同時作業）

普及指導員の活動

	トランスバーラ栽培可能性検証と栽培普及	さとうきびハカマの飼料利用の検討
令和5年度	■ 種子島での初めてのトランスバーラ草地造成	■ ハカマロールベールサイレージ給与実証とハカマの効率回収のためのさとうきびハーベスタダクトの改良
令和6年度	■ トランスバーラの種子島での越年栽培を検証 ■ 現地研修会、現地指導により2戸の生産者が栽培に着手	■ 牛の嗜好性にバラツキのあったハカマサイレージの発酵品質向上のため、発酵促進材の添加効果を検討 ■ 粗飼料不足が危惧される冬期に給与可能な新たなハカマ利用体系（生ハカマ）検討
令和7年度	■ 種子島でのトランスバーラ種苗ほ設置と普及活動	■ ハカマ利用の経済性調査と回収利用モデル組織育成

普及指導員だからできたこと

- ・トランスバーラの実証活動に当たり、試験研究機関とも連携した現地試験等を行いながら、**先進事例を調査し、種子島での普及を進めることができた。**
- ・ハカマの品質向上対策として**大学、試験研究機関と連携して取り組むとともに、ハカマを給与する畜産農家向けの嗜好性調査やさとうきびの収量調査等の耕種農家向けの課題解決を並行して普及活動を行うことができた。**